

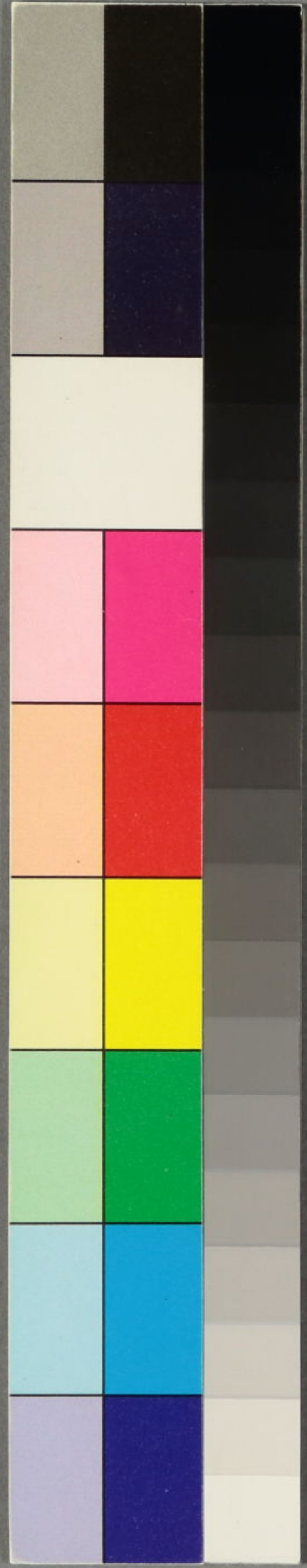
政正
増補

卷之六

和漢年代記 六

持統	文武	元明
元正	聖武	孝護
廢帝	稱徳	光仁
桓武	平城	嵯峨
淳和	仁明	文徳
清和	陽成	光孝
宇多	醍醐	

漢 唐の中宗の嗣聖四年より後唐の明宗の長興元年より





改正和漢年代紀卷之六



<p>元 十四 持統 野 乃皇女母八遠智姫といふ 先帝の后なり位に在り十年 先帝の御衣と袈裟衣を縫て奉り施す 九月因忌 齋と設く○とんり元祿六年まで十七年よとよふ</p>	<p>二 正月卯日始て御杖とさく ○周乃詩と季で日本の代 とす○十月十日先帝と大 内の子とさく</p>	<p>三 正月十五御新とさく○ 巳正 大后 元○九月僧懐美</p>
<p>丁亥 揚初成 大后と廢一帝と 位を復さんとして 死す○天下大に飢饉す</p>	<p>戊子 二月大后乾元殿と毀 ○五月自聖母神皇 と号す八月唐の宗室と殺</p>	<p>六</p>

年代記

卷之六

八	錢とあつ司と置○十月都甲午周延載元	諸國勅して仁王經と講せしむ○十月近江笠須郡禮泉と	と大和の藤原と藤原の宮とふ	九	九月秋の徒と放ちゆると	乙未周天冊万歳元	十	正月諸郡南門と射る	丙申周万歳通天元	元	二十四文武 講八天之真宗 豊幼名八珂瑠の王天武の孫草壁の皇子は	十一	草壁の皇子薨す壽廿八歳○双六と禁制と	十二	新平道の太總管とす	十三	十月太石とつる豊と号	十四	正月朔即位○七月吾高廣	十五	九月太石国と改め周といひ	十六	九月武收率と納言と秋	十七	比真人嶋と右大臣とす	十八	天授元年	十九	則天順聖皇帝と称	二十	仁傑と同平章事とす	二十一	九月武收率と納言と秋	二十二	比真人嶋と右大臣とす	二十三	九月武收率と納言と秋	二十四	比真人嶋と右大臣とす	二十五	比真人嶋と右大臣とす	二十六	比真人嶋と右大臣とす	二十七	比真人嶋と右大臣とす	二十八	比真人嶋と右大臣とす	二十九	比真人嶋と右大臣とす	三十	比真人嶋と右大臣とす
---	-------------------	--------------------------	---------------	---	-------------	----------	---	-----------	----------	---	---------------------------------------	----	--------------------	----	-----------	----	------------	----	-------------	----	--------------	----	------------	----	------------	----	------	----	----------	----	-----------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	----	------------

三	五月役の小角と伊豆嶋	巳亥正月帝東宮と在す○李	と大和の藤原と藤原の宮とふ	九	九月秋の徒と放ちゆると	乙未周天冊万歳元	十	正月諸郡南門と射る	丙申周万歳通天元	元	二十四文武 講八天之真宗 豊幼名八珂瑠の王天武の孫草壁の皇子は	十一	草壁の皇子薨す壽廿八歳○双六と禁制と	十二	新平道の太總管とす	十三	十月太石とつる豊と号	十四	正月朔即位○七月吾高廣	十五	九月太石国と改め周といひ	十六	九月武收率と納言と秋	十七	比真人嶋と右大臣とす	十八	天授元年	十九	則天順聖皇帝と称	二十	仁傑と同平章事とす	二十一	九月武收率と納言と秋	二十二	比真人嶋と右大臣とす	二十三	九月武收率と納言と秋	二十四	比真人嶋と右大臣とす	二十五	比真人嶋と右大臣とす	二十六	比真人嶋と右大臣とす	二十七	比真人嶋と右大臣とす	二十八	比真人嶋と右大臣とす	二十九	比真人嶋と右大臣とす	三十	比真人嶋と右大臣とす
---	------------	--------------	---------------	---	-------------	----------	---	-----------	----------	---	---------------------------------------	----	--------------------	----	-----------	----	------------	----	-------------	----	--------------	----	------------	----	------------	----	------	----	----------	----	-----------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	----	------------

三

三

三

四 元興寺の道昭叙す始て火 享周 元 六月狄仁傑死す 七
 葬は 不比等律令撰む ○美津金光明經を翻譯す

三 是より先朝号あはれも時 享周 元 長安とわらひし
 の瑞と記より是と年号始す ○大伴の御行死す

二 右大臣と贈る人贈官の始也 ○二月丁巳の日孔子と大季
 寮と祭る是と新奠といふ ○始て庚申と祭る ○五月粟田の
 真人と遣唐使とす ○七月丹比嶋真人死す ○聖武じしは

二 二月紀伊伊曾大社と賣 享周 元
 わらひ ○十月九月始て木曾山道と開く ○同廿日先帝崩す

三 同四月阿都の御主人死す祭 享周 元
 ○立山権現と越中よ勸請と ○月三つあつ人異國より来
 ○美濃僧正と任す ○十月先帝と志鳥山皇の陵火葬す

慶 正月石上磨と右大臣と 甲辰 四月周大像と作る 享周 元
 す ○四月近江の下笠村よ牛頭乃社とのび ○七月粟田乃
 真人 敏朝と米干解田廿町あり ○始て諸國の印とわら

二 諸國の印と糾と ○大和乃 乙巳 正月張東之など周と討て
 宇陀よ八咫鳥の社とわら 帝位を復る大后と則天
 ○五月刑部乃親王薨す 聖皇帝とす十月則天
 九月二品總積の親王以 武大后崩と ○密諦 楊
 知大政官事とす 嚴經と翻譯す

三 十月不比等維十會と修と 享周 元
 ○始て追繼と行ふ 二月神奈の叙と ○五月則
 天皇后と葬る ○大宝積經
 とわらむと

四 六月十五日帝崩す 享周 元
 廿五歳 ○廿二日地震 ○長八丈横二丈二尺三面の鬼わらる ○
 七月帝乃母位と即あつ ○十月十二日帝と志鳥山皇とて火

享周 元
 廿五歳 ○廿二日地震 ○長八丈横二丈二尺三面の鬼わらる ○
 七月帝乃母位と即あつ ○十月十二日帝と志鳥山皇とて火

蘇一廿日檜隈安古山の陵よりうつ

和銅

十四元明

諱ハ日本根子天
津御代豊国成姫
幼名ハ所閉ル皇女
皇太子妃先帝乃母
乃母ハ宗我姫
乃母ハ石川右馬の女
乃母ハ在位
七年正月武藏
乃母ハ始テ和銅
乃母ハ改元
乃母ハ三月石上
乃母ハ磨と左大臣
乃母ハ不比等若
乃母ハ大臣
乃母ハ仲磨生
乃母ハ始テ銀錢
乃母ハ銅錢
乃母ハ行ハ十月
乃母ハ廿日大
乃母ハ會

二

二月筑紫の觀世音寺と構
四月泰長兼正光松尾
乃杜の守護となり
五月新羅貢
六月章皇后毒と進テ中宗と弑一重茂と位よ

二

三月都と奈良より川と

庚戌

神僧万回宮中入号法

雲とあり高山の一行宮入

三

三

不比等具福寺と造

才

睿宗

諱ハ具高宗の景
子りり在位
年雲

景

即ち乃と湯帝乃子隆基
乃母ハ起テ章皇后
乃母ハ温王乃子
乃母ハ睿宗
乃母ハ位よ

四

二月山城紀伊郡
乃母ハ稱荷大

才

織

賀茂乃奈とトまる

二

五

奥列と割テ出村と置
賀より黒き狐ととく

才

正月

大極と改五月延和
改

先

六

四月丹波乃五郡と割テ
乃母ハ備前
乃母ハ六郡
乃母ハ割テ
乃母ハ美作
乃母ハ日向
乃母ハ割テ
乃母ハ大隅
乃母ハとす
乃母ハ勅
乃母ハ此土記
乃母ハ撰
乃母ハ嵯峨
乃母ハの法
乃母ハ輪
乃母ハ寺
乃母ハと

才

玄宗

諱ハ隆基
乃母ハ睿宗
乃母ハ在位
乃母ハ四十四
乃母ハ年
乃母ハ七月
乃母ハ大平
乃母ハ公室
乃母ハ陰謀
乃母ハ露
乃母ハ死
乃母ハ高力士
乃母ハと右監
乃母ハ門將軍

元

六月廿五日多武峰乃定惠遠
乃母ハ化
乃母ハ布
乃母ハ二天
乃母ハ穴
乃母ハと二端
乃母ハと定

七

甲寅

正月

官女教百人と選
乃母ハ自
乃母ハ教
乃母ハ玄
乃母ハ竟
乃母ハ禪師
乃母ハ叙

二

靈龜 四十四元正 諱日本根子高 卯九月侍読乃節と置○西域三
乃八國の降参と云

高皇女と云武乃の也九月三日御母先帝の禱と受て
位は即ち位に在り十年○九月十日若狭に遠敷の社と崇

二 高藤人と千七百九十九武 丙辰 嵩岳に元理を叙す○天竺
藏と述し其所と高藤郡 乃善無畏京師に來る○
と号く○八月多治比乃縣 六月太上天皇崩す○十月
守藤原乃宇合と遣唐 宋璟と黃門監と云

使とす下道の真備阿陪乃仲磨を舩僧正と入唐

養 三月石上磨死す○道慈丁巳七月明堂と乾元殿とす 五

老 律師飯朝す○泰澄白山に登る○九月美濃に禮泉と云出る
二 天竺の善無畏來る○不比 戊午正月悪銭と禁し 六

三 孝謙ひまれの事○百官よ 巳未 真言宗の四祖天竺の金七
笏と把し婦に衣服の様 と定む 師智京師にきく○長
都李通玄花嚴論と撰

四 五月舍人の親王昭太子と帝 不空三藏天竺より來る 八
作る○八月三日藤原乃不比等死る海公とす○放生會始る

五 正月長屋の王と右大臣とす 辛酉 十月郊子去死す○一行禪九
○始て左右兵衛と置○ 師と勅して新曆と撰し
十二月七日先帝崩す○六 智昇釈教録と撰し

六 魚名ひまろ○始て女醫と置 庚 帝に孝經と注す 十
乃博士と置○五部の大乗經と字して齋と設く

七 十月紀の朝臣磨白き 癸亥 五月藤原正春院と置て父十
龜と云く 奈此士と聚る春と修む

年代記 卷之六

神皇正統記 四十五 聖武

諱ハ天皇國押 甲子八月宇文融と御史中丞とす十二
開豊標彦彦尊文武帝此皇子ナリ母宮子姫

この淡海公不比等此女ナリ十四歳と太子と立廿四歳と
て正月禪と受二月即位即ち位ニ在し廿五年○
先帝と天上天皇と号す○長屋の王左大臣と任じ○
十月紀外玉津嶋乃明神とあむ○元祿六年まで 九百廿
年

二 十月朔。帝。冬至の禰と乙丑。四月集仙殿とわすゝめて十三
受多の耳子唐より來り 集賢殿とす

三 六月帝。御不例より放。夏。正月張説よ命て五祀と古
生會と行り。行基。山。修し。日本の僧。榮啟。
崎乃橋と造り。普照。揚別よきつり

四 三月大和の長谷寺とつ。五。卯。善揚流志。叙す百五十六
月廿日。南苑の木。末折。歳。一行禪師。叙す

五 渤海より使と遣。真と之。辰。八月。元大徳曆とと。カ
ま。九月流星。長と三。天むら。四。一。柳。内禪の庭。たつり

天。正月。長屋の王。自守。八月。己。八月。帝。生れ。日。秋。の。節。志
平。光。明。子。と。皇。后。と。の。電。背。と。す。私。銅。鉛。錫。と。賣。り
よ。天。王。曹。平。智。自。井。と。の。七。字。あ。つ。と。ま。り。と。禁。し

二 四月。施。業。院。と。つ。つ。○。具。福。寺。摩。支。那。港。然。の。為。止。觀。と。説。十八
の。塔。と。草。創。と。○。智。昇。開。元。教。教。録。と。す。し

三 雅。系。寮。と。定。む。○。六月。紀。辛。未。正。月。詩。春。と。吐。蕃。と。あ。り。つ。九
列。の。海。の。水。血。の。と。と。五。百。と。處。て。や。む

四 新羅。使。遣。一。貢。と。ま。り。○。甫。不。空。天。竺。よ。り。佛。子。國。至。廿
夏。天。早。し。と。五。穀。熟。す。○。八月。大。凡。○。多。活。比。の。廣。成。と。遣。唐。使。に

五 淡路の廢帝。生れ。の。三。嶋。の。齋。三。月。韓。休。と。同。平。章。事。と。す。廿
明。神。現。る。○。七月。盂。蘭。盆。會。○。十月。天。下。と。分。て。十五。道。と。と

乃供物と備て常式とす

六 正月皇后身福寺に西金堂甲戌五月張九齡と中眉令ら一廿二

と造宮す。藤原比武智磨乙亥五月揚武の女と壽王の妃と廿三

李林甫と同一朝とす。帝とつら苑中とて奏とす。

七 三月遣唐使廣成。玄宗より乙亥十月揚武の女と壽王の妃と廿三

見てくる吉備大臣。玄昉僧正よりいへる。新田の皇子薨る乙亥

八 天竺の菩提僧正よりいへる。丙子吳道子。地獄變の圖とす廿四

葛城の王は橘姓とあり名と諸兄とわくこと。

九 桓武じしよりいへる。四月房前丁巳四月揚武の諸より太子瑛とす廿五

七月藤原磨。同武智。邦玉瑤。先王瑤とす。八月宇合。とる。花唐とて死す。國が。母が。寺と建る。

十 正月阿部の内親王と。戊寅六月。孫と太子より。名と勅とす廿六

太子より。橘の諸兄と右衛門。とあり。毎月六日。海に祭す。

十一 諸國より。因分尼寺とあり。己卯孔子と謚して。文宣王とす廿七

十二月。宇合の子。藤原の廣。震。正月。張九齡死す廿八

十三 都遷。此賀より。天赦あり。辛巳八月。安祿山と。管別の都督。荒廿九

と。不空三藏。獅子國より來る。十月。寧王憲死す。

十四 興別より。赤檉より。深さ。三寸。辛。莊子と。南花真人と。封とす三十

六月。京都より。飯あり。十月。百進。列子と。冲虚真人と。封とす。

十五 正月。筑紫より。始て。腹赤の。癸未。正月。安祿山朝とす三十一

魚と。五月。諸兄。矣。臣より。任す。十月。行基と。勅して。

天下と勸進一金銅天分慶那仙達少の鎮筑紫の鎮西府置

二月都と難波よりいと○十甲申正月年とわくふて載し三

月道慈律師寂す

不

正月行基大僧正に任む○乙酉正月帝空申御譲とさく四

四月伊預の真木山自焼る

○八月楊氏と貴妃とす

○八月盧舍那仏と東大寺よりつとむ

十六玄昉僧正筑紫より流るく西成

廣嗣が恋空。蹴殺と○田園と寛て永く寺地とさく

と禁一い○天竺の婆羅門僧正とさく

十九五月昔首蒲の慢と係べし丁亥安祿山貴妃の養子とさく六

勅と○九月廿日長谷寺供養

○十月帝驪山の花清宮とさく

廿四月廿日先帝崩る戊子十月揚貴妃の嬪と国走候七

壽六十九廿八日佐保山と

と○會昌縣と改て昭志とさく

火葬と七月追善の爲に平郡の法花經とさく

天十四孝謙 譚八阿府の内親己丑奇詔輸。然蕃とせしむる 八

手と高野姫と先帝此皇女より母光明皇

后と洗海公の女より七月二日禪と受て位に即位在

し十年○正月聖武帝天下の殺生と禁と行基と大善

薩の号とあり○二月行基菩薩遷化○陸奥より黄金と

さく○四月聖武東大寺より奉り仏と向ひ三室の奴と称と

○諸兄正一位と叙藤原豊成右大臣に任す○七月先

帝と太上天皇と称と○八幡と東大寺の内よわがし

二三月藤原の清河大伴の舌唐寅五月安祿山と東平郡と九

曆吉備大臣と遣唐使と

○十月揚釧と名と自忠とさく

と○八幡と八百石と封と

貴妃の兄あり

三著授僧正に任む○勝室 癸卯 正月祿山と爲と親仁坊と十

より必館の公私の財と質もの
とありぐりゆす

和起る。十月祿山
契丹と討て大よぶ

二月廿者婆羅門僧正。述化
四月九日東大寺。供養。幸あり

十月李林甫死。楊
因忠と右丞相とす

光明皇后。法花滅罪寺と建
正月遣唐使。改朝と唐の鑑真

甲午二月楊国忠と司罕とす
十月花清官と幸

和尙。伏舍利と持ても。来る薩
官。奪り。鑑真東大寺。戒壇と立る。八月凡水

乃作。舍利と竜

八幡神託して常神田と請ふ
五月二日先帝崩御。壽五十

乙未十月祿山。ひひん
才。諱。八亨。孝宗。至

六歳。佐保。穴の陵。ま。さ。あ。ろ。法
進。慶。俊。ら。に。律。師。と。な。る。先

乃子。乃。在。德
位。七。年。正。月。祿。山。京
師。と。陷。月。雄。武。皇

年。聖。記。云。○。武。宗。野。ま。さ。ら。揚
て。殺。○。七。月。宗。聖。武。を。位。に。即。す。天。帝。と。は

帝。稱。一。國。と。熱。と。号。す
揚。貴。妃。楊。国。忠。馬。鬼。と

大。禁。中。の。寝。殿。の。承。麗。の。裏。夫。丁酉
下。大。平。の。字。と。の。り。生。す。又。駿

正月。祿。山。子。安。慶。緒。二
父。と。殺。して。自。立。○。十二

河。の。自。皇。帝。命。百。年。の。四。字。以
字。す。蚕。と。さ。く。と。つ。年。号。と。改。む。○。正。月。六。日。諸。兄。盡。死。○。三

月。上。皇。西。京。と。入。る

月。道。祖。の。王。と。廢。一。大。炊。の。王。と。大。子。と。す。○。五。月。道。祖。の。王
と。奈。良。廢。と。殺。一。横。佩。の。右。大。臣。豐。成。と。筑。紫。と。な。る。に

○。三

二。大。神。の。藤。乃。根。と。野。の。後。で。字。と。成。成。六月。太。乙。壇。と。つ。り。る
る。す。○。猪。鹿。乃。類。と。進。ぶ。と。と。禁。す。○。八月。帝。位。と。あ。づ。り。あ

乾。元

三。四。七。廢。帝
諱。大。炊。天。武。乃。孫。命。己亥。三月。史。思。明。安。慶。緒。と。二
人。の。親。王。の。子。也。母。山

殺。一。四。月。自。大。聖。王。と

廿一
稱一
年号と順天とす

城の上總守當廣乃先の女なり
位は在し六年○招後寺に
六月舎の親王崇道益敬皇帝

四
良弁僧正は任じ○三月方年通
庚子七月李輔国上皇と西
内よりつと○王維死と

五
十月都と迎江の保良より川と
辛丑燕の史朝義史思明と殺
二

六
正月業師寺觀音寺と戒壇
壬寅四月上皇崩す壽七
八十四日とぎて帝崩す
太子位より

七
五月五日鑑真和尚・寂す○六月
癸卯
講・諫・勅宗の廣
子有り在位十
德

廿三當の曼陀羅成就○八月
始て大行曆と用の○高兼より
王新福と遣して貢とさぐ

八
九月藤原の惠美の押勝・誅せ
甲辰正月述と太子とす○五
二月五紀曆と行ふ○九月
閏中は蝗あり森あり

天
孝謙帝再位し即ち
乙巳九月百の高座と置て

深
稱德
○十月廿三日廢帝・洪路
仁王経と講じ

護
て崩御・壽卅三歳○道鏡と大政大臣禪師とす○十月廿七日豊成・薨
泰

二
十月道鏡・法王の位と授く藤
丙午七月孟蘭盆會と禁
中よりつと

護
三月泰澄・寂す○七月始て下野の
丁未七月魚朝恩・章敬寺
二

景
二荒山と用く後より日光寺
とせらる

雲
二月春日大明神・大和の安部山と跡とす
戊申正月章敬寺と幸し僧
三

二
七月孔子と文宣王と諡と○式部兵部

賜与○十月九日春日山の禰

尼千人と度すの韓退之生

三

正月三日大臣以下道鏡と拜す○五月己酉十月杜鴻漸死と
月塩焼の玉妻不破の内親王と追放し其子志許志磨と
土佐の流と○清磨が足の筋とさうして大隅のなはた

四

龜室

四十九 先仁

諱ハ白壁の王。諸書。漢成

三月

魚朝恩と殺す

五

孫施基の皇子は子なり母ハ紀標姫と贈大政大臣諸人
のひすあ也六十二歳とて位ハ即ハ位ハ在ハ十二年○八月
四日称徳帝崩御壽五十三歳群臣策と定ハ白壁の王
と立て太子とシ十七日称徳帝と大和の佐貴のつゝ野山
葬ル廿日道鏡と貶して下野の業師寺の別當とす○十月
朔帝即位年号と改ハ施基の皇子と田原天皇と諡と
○十一月朔井上内親王と皇后とハ○元祿六年まで
九百廿四年

二

正月廿三日他戸の親王と太子とハ○辛亥三月河内大いひてりす
二月廿日永手死す○三月吉備大臣仕と致と五日諸國の疫神
祭し十三日清磨と右大臣とす○十一月大嘗會

六

三

四月七日道鏡死す慶人のとくよ壬子
葬と○五月廿七日太子と死と○六月十九日都往々石墮
大さ柚のごと○七月廿二日上總より前二の跡半よ似と馬
とさく作物のより司前と解と○八月廢帝と改葬と

七

四

正月山部の親王と太子とハ○五癸丑白糸天皇ひまら
月廿七日星墮る大さ雍のこと○空海ひまら

八

五

平城筑紫の高尾の神護寺と甲寅六月不空三藏寂と
六月廿六日井上内親王他戸の親王乙卯正月田原天皇と
王死す○八月十二日始と蓮葉の宴と設く○十月百濟公死と

九

六

王死す○八月十二日始と蓮葉の宴と設く○十月百濟公死と

十

七	四月遣唐使節力多りり鄭丙辰二月田承嗣とゆるす	十一	唐使河清清と春とありり九月京師無寇石尾方世日余と止
八	九月十八日内大臣民繼死す○冬己巳七月揚州死す○魏真十二	九	三月藤原の魚名と尊臣す○十一戊午六月猫と前と向く十三
九	正月朔魚名内大臣と任す○二月己未五月帝崩す太子位十四	十	正月朔唐使使並河清女と冬
十	正月朔唐使使並河清女と冬	十一	正月朔唐使使並河清女と冬
十一	正月朔唐使使並河清女と冬	十二	正月朔唐使使並河清女と冬
十二	正月朔唐使使並河清女と冬	十三	正月朔唐使使並河清女と冬
十三	正月朔唐使使並河清女と冬	十四	正月朔唐使使並河清女と冬
十四	正月朔唐使使並河清女と冬	十五	正月朔唐使使並河清女と冬
十五	正月朔唐使使並河清女と冬	十六	正月朔唐使使並河清女と冬
十六	正月朔唐使使並河清女と冬	十七	正月朔唐使使並河清女と冬
十七	正月朔唐使使並河清女と冬	十八	正月朔唐使使並河清女と冬
十八	正月朔唐使使並河清女と冬	十九	正月朔唐使使並河清女と冬
十九	正月朔唐使使並河清女と冬	二十	正月朔唐使使並河清女と冬
二十	正月朔唐使使並河清女と冬	廿一	正月朔唐使使並河清女と冬

四月三日山部親王禪と受て位
 即多早良の親王と太子と
 ○慶俊を山部社とわがじ○五月十七日始て中宮と置○六月
 廿七日魚名と大臣とす土師の道長と菅原の姓とありり○
 七月六日富士山下下灰少して木の葉枯彫じ○十月大嘗
 會○十二月廿三日光仁帝崩御壽七十三歳

正月李室臣死す○六月
 月郭子位死す

五月植武
 詔山部先帝初一壬戌
 魏王と稱し去後趙
 王と稱し李劔存王と
 稱してそびく

位よ在と廿五年○正月先帝
 と廣星乃山陵と葬り○国正月塩焼の王太子承上乃
 継謀反して伊豆と流る○有鳥名筑紫と流る藤原
 乃田丸右大臣となる○八幡の神託と我大自在王菩薩の家

神記
ヨリテ

<p>二 三月十九日右大臣田原九死す。四月 十七日藤原のひ平滿と皇太子 ○七月藤原は是公右大臣の任と 廿五日魚名死す。○十月十四日帝。交野の鷹がら</p>	<p>十月朱批のり大泰 皇帝と稱し年号と 忘天と自と漢と</p>	<p>四</p>
<p>三 五月七日蛙三万。天壽のあり 陸の蛙合戦といふ十六日小黒磨 と遣し長世の地と相せし。○六 月中約言種継ホと以て長世都 と嘗し五月土皇帝長世都幸</p>	<p>甲子 正月壬武俊田院罪と 謝と。李希烈自 皇帝と稱し因と楚 といひ武成と年号す。○ 八月顔真卿ころも</p>	<p>與 元</p>
<p>四 正月大魚五匹漂ひんゆ大なる物 一丈五尺。○九月廿三日種継賊と 射殺る廿四日大伴の継人の黨と捕ふ廿八日早良の太子と 洗路まなず道と死す。○土月廿日安殿親王と太子と</p>	<p>乙丑 正月顔真卿司徒 と贈り文忠と盜と</p>	<p>貞 元</p>

<p>五 正月七日坂上の相見死す。○廿 日近江の梵歌寺と草創と。○十 月先帝と天和乃田原の陵と改 めとあり。○薄和ひまらふ</p>	<p>丙寅 四月陳德奇。李希 烈と殺と。○六波羅 密経と翻譯と</p>	<p>二</p>
<p>六 十月交野の幸。種継が別業と 御座所す。十一月五天天神と交野の祠と先帝と神と配と</p>	<p>丁卯 二月韓滉死す</p>	<p>三</p>
<p>七 正月太子元服。○四月十六日帝庭 と出自雨と祈りあり。○七月廿日清磨死す。○最澄初て比叡山と開く。○ 十一月奥羽の賊とらる。七日征東大將軍紀の古佐美と節と</p>	<p>戊辰 六月陽生と徴て諫議 大夫とす。○馬祖道一寂す</p>	<p>四</p>
<p>八 六月官軍。奥羽の賊と戦て敗 軍す。○七月諸国の閑と廃す。○九月八日古佐美。敗落し て節と進り十九日藤原の是公死す</p>	<p>己巳 三月李泌死す</p>	<p>五</p>

年代記

卷之六

九	二月 繼繩右大臣に任ず。四月 田原 夫の魚酒を食して禁じ。三月 錢の所置	六
十	九月 牛を殺して漢神を祭し。辛未 八月 陸奥に兵部侍郎を 置	七
十一	六月 十日 大子の久麻呂の早良 親王の宗也使を遣して其靈 を謝す。七月 京奈の喪を祭し。皇 正月 廿日 勅して漢音を習す	八
十二	正月 小黒鷹古佐美。勅して氣 山城葛野郡の裡を造る	九
十三	十月 帝。新都より行幸	十
十四	八月 十三日 繼繩。木。因史を修 てなり。十月 廿日 都賀野郡 より。十月 早稲て平安城といふ。十二月 賀茂の社より幸	十一
十五	七月 十六日 藤原の繼繩死す。丙子	十二

十六	二月 十三日 菅原の真道。本 紀四十卷を撰てなり。五月 宇治橋を造る。七月 田原征夷大將軍に任ず	十三
十七	三月 早良親王の骨を迎て大和 枚花并る。七月 坂上の田村に清水寺とす。十一月 渤海貢す	十四
十八	二月 廿日 和氣の清磨死す。己卯 二月 廿日 渾瑊死す	十五
十九	二月 四日 錢を納て爵を承りて禁 ず。三月 より 四月 まで 軍山を自燃す 官位を復す	十六
廿	其声。齊を。河水。血を。七月 早良親王を崇道天皇とす	十七
廿一	八月 田村磨屋東夷を平らぐ。辛巳 五月 王武俊死す	十八
廿二	五月 足柄の道と廢し。菅根の道 を削ぐ。富士の焼碎の石道を塞ぐ。故より。七月 大和の頭足成	十九
廿三	五月 菅根の道と廢し。辛未 正月 より 七月 まで 海	十九

年代記

卷之三

十四

柄乃旧路といらく

廿二月五日石原乃社の器仗と山城

甲

廿

運ぶ三月遣唐使と成徳のり空海最澄らに入唐と

廿春帝御憐よつて石上乃器仗

乙酉

才順宗乃子なり正貞

とくす六月遣唐使取朝最

月德宗崩才順宗位

澄もにのる九月寂澄高尾と

才順宗崩才順宗位

灌頂と修と

才順宗崩才順宗位

大

一平城

詔八安慶後と和奈

丙戌

一憲宗

詔八繼順宗

乃皇子也母公年滿贈大政大

十五年正月順宗崩

臣良健のひす也位在位四

才九月李渤とあり

年三月十七日先帝崩御壽

才左拾遺とあり

七十歳四月七日山城栢原の陵と葬らる五月十八日帝即位十

九日神野乃親王と太子と藤原の門曆右大臣と任じ

月廿四日始て觀察使と置六月十日勅して五位以上乃子孫

十歳より上と皆大李と入し八月空海取朝と

二

四月廿一日近衛府と改て左近衛と

二

中衛府と改て右近衛と

二

月十六日諸国より来女と貢らしと

二

止十月廿七日伊豫乃親王及逆覚と十月廿二日原寺と押込飲食とら

三

正月疫病とやる使と遣して京中戊子

三

乃貨と埋し五月安徳乃真真大

三

同類聚百卷と撰てさく十月十五日大嘗會

四

二月帝御憐四月朔位と太子と己正

四

ゆづりも十三日即位十智高岳親王と太子と

四

御憐より非常の赦わり八月晦日帝平城帝と朝と

四

十月平城の皇居と奈良よ造る十一月平城帝平城の宮を遷る

五嵯峨 諱ハ神野先帝此才 庚寅九月權徳与皇年章事五

二月始て藏人の頭を置九月六月先帝此命よらて都を平

城よ遷んとすもあて騷動す尚侍某子と右兵衛の督仲成

七が官を削る十日先帝東国よ趣く十一日大和の添上よ至り

兵路と遮るを聞て宮よ假り飾と落し十三日高岳親王

と廢し大伴の親王と太子とに廿九日渤海貢とさるる十一

月十七日大嘗會仁明いれはる元祿六年まで八百十四年

二五月廿三日田村丸死す八月皇太子即位 帝 履居吉照女死す六月

三月神皇死す幸花比賣あり 壬辰 七月恒と太子とに 太子寧死す

四月男の尾寺より女の僧寺よ入と禁す六月紀の廣瀨

ホよ日本紀と読し十月十六日藤原の内膳死す十二月

五日友原の園人右大臣よ任じ同月源の常ひまら

四五月櫻及頭二身六兒あり 癸巳 正月權徳与能ら

冬嗣貞福寺の南圓堂とす 是年天竺其作 交はじ

五四月友原の冬嗣の深院の館を幸 甲午 閏七月吳少陽死す十九

御製の詩とあり五月皇子四人 月李吉甫死す百丈

皇女四人よ始て源の姓とあり 懷海寂す

六月朔方多の親王藤原の園人小姓氏録と撰てなる

六四月志賀唐崎を幸七月橋の乙未 三月柳宗元柳多刺

嘉智子と皇后とす十月安房より 史とたり 刘禹錫連

芦と枝と長三丈 困一尺 列の刺史とたり

七正月廿五日沙ろ六月空海高野 丙申

とつろ八月十六日大凡羅城門とさき倒す

二月交野の幸

丁酉

十一

九月廿七日殿閣諸門乃号改

戊戌

十三

五月廿九日白昼、男、此、尼、寺、入、女、の、僧、寺、入、し、と、免、と、○、八月、朔、日、香、乃、親、王、の、男、女、久、賀、乃、姓、と、あ、つ、つ、○、十月、十九、日、園、人、死、と

七月夏の首より雨あらず廿日京

己亥

正月、仙骨と京より韓、退之、仙骨の表と上て、諫ひ、帝、怒、て、韓、退、之、と、潮、の、刺、史、と、貶、と

中より白竜あらわれ暴雨、甚

藤原乃冬嗣、小、弘、仁、授、と、撰

て、乃、○、家、澄、殿、山、戒、壇、と、立、と

九月寂澄、殿、山、の、相、輪、堂、と、建、立、と

庚子

正月、帝、崩、す、太子、位、と、す、○、賈、島、還、俗、す

藤原の冬、嗣、汝、陽、三、条、乃、北、土、生、乃、西、乃、勸、子、院、と、立、て、家、系、氏、の、宗、族、に、李、同、所、と、す

辛丑

二月、遷、俗、す、○、賈、島、還、俗、す

二月、天、台、法、花、乃、度、者、と、二、人、殿、出、て、毎、年、三、月、得、度、受、戒、す、と、同、四、日、寂、澄、の、寂、と

壬寅

二月、遷、俗、す、○、賈、島、還、俗、す

正月、東、寺、と、空、海、と、あ、つ、つ、○、二月、三、日、越、前、と、對、て、加、賀、と、す、○、四月、十、日、帝、令、然、院、と、遷、り、と、ひ、十六、日、位、と、太子、と、禪、の、十八、日、正、良、親、王、と、太子、と、廿、三、日、嵯、峨、帝、と、太、上、天、皇、乃、尊、号、と、す、と、あ、つ、つ、廿、七、日、即、位、○、九月、十二、日、上、皇、差、差、乃、離、宮、と、あ、つ、つ、○、十月、十三、日、大、嘗、會

三月、牛、僧、孺、と、同、平、養、事、と、す、○、九月、韓、退、之、吏、部、侍、郎、と、な、り、と

三月、天、台、法、花、乃、度、者、と、二、人、殿、出、て、毎、年、三、月、得、度、受、戒、す、と、同、四、日、寂、澄、の、寂、と

癸卯

三月、牛、僧、孺、と、同、平、養、事、と、す、○、九月、韓、退、之、吏、部、侍、郎、と、な、り、と

三月、天、台、法、花、乃、度、者、と、二、人、殿、出、て、毎、年、三、月、得、度、受、戒、す、と、同、四、日、寂、澄、の、寂、と

甲辰

三月、牛、僧、孺、と、同、平、養、事、と、す、○、九月、韓、退、之、吏、部、侍、郎、と、な、り、と

三月、天、台、法、花、乃、度、者、と、二、人、殿、出、て、毎、年、三、月、得、度、受、戒、す、と、同、四、日、寂、澄、の、寂、と

乙巳

三月、牛、僧、孺、と、同、平、養、事、と、す、○、九月、韓、退、之、吏、部、侍、郎、と、な、り、と

三月、天、台、法、花、乃、度、者、と、二、人、殿、出、て、毎、年、三、月、得、度、受、戒、す、と、同、四、日、寂、澄、の、寂、と

丙午

三月、牛、僧、孺、と、同、平、養、事、と、す、○、九月、韓、退、之、吏、部、侍、郎、と、な、り、と

三月、天、台、法、花、乃、度、者、と、二、人、殿、出、て、毎、年、三、月、得、度、受、戒、す、と、同、四、日、寂、澄、の、寂、と

丁未

三月、牛、僧、孺、と、同、平、養、事、と、す、○、九月、韓、退、之、吏、部、侍、郎、と、な、り、と

并代記

卷之六

七

十、十六日北山北の陵に葬る。同日伴の健岑橋乃逸
勢謀及覚人生捕る。廿三日太子と廢す。○八月四日道康親
王と太子と。○十月廿二日阿保親王薨る。

七月十三日藤原の緒嗣死す。○嵯
峨の上皇一周忌本命日。遷して十四日
仙觀と林中よこつろ

○十一月文室の宮田磨謀及とくつろ。覚行は伊豆に流さる

七月源常と藤原橋乃と右大臣す。甲子

正月尾張の連濱主とあり長壽
系と舞時と年百十三月此舞と作る
七月天下の僧尼と還俗せし
四万余僧尼と還俗せし
ひるし廿六万五百人

正月廿六日尾張の連濱主と。百
二月八月伊勢
三月帝崩す。先王愍
位よけく

藤原繼びす。男と産。頭二つ年四つ生して。即日死す

十四 六月十六日紀乃名虎死す。○十月廿
十日賀茂の齋院有智子内親
王薨る。○十二月十九日橘乃氏公死す

嘉 正月十日藤原良房右大臣と任
成辰 二月今孤總翰林李士
と廿ろ。五玉院と作る

祥 〇横川の中堂と建立す。○八月五日洪水
二月李德裕死す

二 三月具福寺次法師。亦聖像と。巳巳
閏十一月李德裕死す

三 三月十九日帝飾と落。○廿一日摩
黄檗禪師。寂す

崩御。壽四十一。廿五日深洲山に葬る。○同日清和
生。○廿八日
良峯宗貞出家。○遍昭と子の。○四月十七日即位。○有
昔者。惟仁と太子と

仁 五 文德 諸八道康後。田村の卒末
五 帝と先帝才。元皇子。母ハ左大臣冬嗣の妹。五
余

五

安天	三	二	一	二	三	二	一
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より
○七月十五日常陸鹿嶋郡大洗磯前神社に神降る新磯前神社と崇	三月地震畿内河内民屋多壊る	二月十八日良房小勅して国史を乙亥正月壬元達死す	○七月備前より新食の僧きり	六月十三日左大臣源の常死す甲戌二月牛叢と陸羽の	二月抱捨とやる晦日良房の館	二月諸國取露る○国八月十二日大	○十月大嘗會○元禄六年まで八百四十二年より

二 五月廿二日洪水人多く流死す○戊寅七月河内北淮南大水

六月十日旗雲わらわら○八月廿七日帝崩御壽卅二九月六日

是山は葬る○十月七日太子即位母の明子と尊て皇太夫人と号

諱ハ惟仁後水尾の巳卯八月帝崩す准位より十三

政大臣良房の女也位に在り十八年○五月七日人康親

玉出家○八月廿三日八幡と男山より○同廿八日上野より一乃

莖九の穂あり未とさく○十月十七日大嘗會

二 五月より六月三日まで雨り大水○庚辰十

九月十日大凡十春洪水○国十月廿三日

菅原良長善未議して国十月の

小と大とす朔旦の冬至と賀せんも也○十月八日新嘉慶の式と修す

三 三月十四日東大寺に金邊大會と奉已

設く大仙の供養周服○六月十六日長慶宣明曆改てこがふ

四 九月京中井の水枯竭る神泉 幸四月戒壇と置て僧尼 三

苑の西北の所と成て諸人よ水と 度す

汲いし○平城の皇子高岳親王の出家真如入唐

五 春咳嗽とやら人多く死す○五癸未

月七日寒して霜少る同廿日神泉苑とて八所御靈と修す

六 元帝元服同十四日慈覺寂 甲申三月禁星いじろ

と○二月十六日真雅法印に任ト輦とあさる○五月望山なる

七 五月十六日中国の神と置下国よ掾 乙酉六月徐商と同平章六

と置○十二月九日甲斐國八代の 事とに

郡と勅して淺間明神の社とす

八 闰三月十日の夜忘天門焼る○六月戊 月天下大旱○七月十四日寂澄と傳教大師の仁と慈覺大師

此号と贈る○八月三日伴の善男總子謀て忘天門と焼しわさる

○八月十九日良房と政と横行し○九月廿三日善男と伴良房と流す

九 五月善男宇多死す○八月二日伊勢と亥信濟の爰と寂す

の伊佐奈伎伊佐奈弥の神の社と管と稱す○十月十日良相死す

十 二月十八日田邑山の陵焼る○十月戊子

十六日陽成しまれも○同十一月廿八日在大臣源の信死と

十一 二月朔貞明親王と太子と成○四己丑八月庵勳死す

月十三日藤原の氏宗等貞觀格と卷と撰て成○八月十三日

備前より一の莖と穂の十九わろ木とさそぐ○同十四日良房と

統日本後紀とあらして成○廿六日大凡大雨

十二 正月十三日氏宗と右大臣と任す○夏八月同昌公主死す○十一

五月より六月中比まで雨少りて 朱邪赤心と姓名と季

京中飢饉す 同昌しあつ

三二月十四日紫宸殿御て政と聽 奉卯五月國寺の幸 十三

四月良房准三宮に任じ隨身兵杖とあり三月廿五日氏宗亦貞觀式と撰にり三月九月良辰五月干懐と貶して韶十三

二月七日氏宗死す三月九月良辰房の病よつて大赦わり七月十一日惟高親王出家八月廿五日源の融左大臣に任じ藤原の基經右大臣に任す九月二日良房死す忠仁を諡す

五月三日香色大と鶏の子にたとひ五月神祇官賀茂松尾保乃神代宗りりりと言す幣と競馬と奉て神の怒とにむ

三月太宰府の沙ろ色墨以聚るるごとく或八寸或六寸余り

正月使遣して傷骨十四とひ四月京師入七月帝崩す儼位

八月廿四日大内大御紫宸殿の椽の椽りど名ある木皆折る河水溢出溺死する者教ととす

八月廿四日大内大御紫宸殿の椽の椽りど名ある木皆折る河水溢出溺死する者教ととす

正月廿八日冷泉院焼亡類火卒乙未五月兼敏死す六月宛四宇〇青首伯耆半頭乃特

六月廿五日嵯峨の院大竟寺とす〇四月十日大極殿焼亡す〇土

二月廿五日嵯峨の院大竟寺とす〇四月十日大極殿焼亡す〇土

月廿九日位と太子とつらり〇土月八日上天皇の号と上る

元 五陽成 諸ハ貞明先帝才乃丁酉 皇子母ハ贈太政大臣長良乃ひすめ二系ハ高子

七位ハ在し八年〇正月三日帝即位〇四月九日大極殿と作〇七月大早神泉苑の水と引て田よそく〇土月十八日大嘗會

并代記

卷之三

十三

<p>二 三月廿九日出羽城起りて秋 田の城と云く。○四月八日眞福寺焼く ○九月廿九日地震。○十二月十一日音基 經小文徳実録と云くを畢る</p>	<p>戊戌 二月曾元裕王仙芝が五 軍を破て首とさる。○十 月河東昭文兵を合て 沙陀を討李鈞戦死す</p>
<p>三 正月三日真雅僧正寂す。○四月廿巳亥 正月高驍兵を遣して六 帝始て考經と読ま。○青月八日 先帝飾と落す。○六月廿六日出羽の賊降参す。○十月八日 大極殿成就す。○十月六日ながく梅の宮の祭と云く</p>	<p>黄巢と云らるる 正月高驍兵を遣して六 帝始て考經と読ま。○青月八日 先帝飾と落す。○六月廿六日出羽の賊降参す。○十月八日 大極殿成就す。○十月六日ながく梅の宮の祭と云く</p>
<p>四 五月廿八日業平死す。○十一月四日基厚子 十一月黄巢長安に入る廣 帝貞元よ奔る黄巢を明 御壽北七日粟田山に葬り 骨と水尾の山上よにさる</p>	<p>帝貞元よ奔る黄巢を明 御壽北七日粟田山に葬り 骨と水尾の山上よにさる</p>
<p>五 九月十六日天名宗。真言宗の諸 奉也正月成都よ幸。○八月</p>	<p>奉也正月成都よ幸。○八月</p>

国の講読師と定め補せらる

<p>六 正月二日帝。御元服。○同日源 乃多。右大臣よ任じ</p>	<p>十月朱温よ名を憲と あり</p>
<p>七 五月三日渤海の使裴頌。菅丞 相の詩と見て白糸天よ似たりと ○五月廿六日神泉苑の裏よ白麻 ひまろ。○十二月五日豊泰院の過よ死人あり</p>	<p>五月李克用。黄巢と 討破て長安を復す。○ 十一月廉晏弘をむく</p>
<p>八 二月四日位と遜人為二条院よ幸。○ 音百官時康親王よ迎へ廿日即位 ○宵梅宮祭と復す。○十一月大嘗會</p>	<p>甲辰 六月賊徒。黄巢を斬て 降参す。○十二月盜。王 鐸と云く</p>
<p>仁 五 先考 院よ仁明才三氏皇</p>	<p>乙巳 三月帝京師よ入る。○宗 権帝と稱す。○十月李 啓</p>

并代記

卷之六

十

<p>子有り母贈太政大臣総継の女 沢子しり位に在り三年○正月十 八日醍醐生身○四月廿日勅して大 般若を説し其基經比平比等と 賀せらる○七月肥前薩戸の破石つ</p>	<p>克用由令改と誅せし と勅して和陸をんとす 李克用聽す十二月夜 帝由令改と九鳳翔 一幸す</p>
<p>二 正月二日基經の嫡子時平仁壽 殿して元服○三月十三日東寺の塔 をらる○十五日僧正遍昭輩とあさる</p>	<p>西平 十月朱玫襄王熈と立て 帝より建貞と年号す 十二月二人あがり殺さる</p>
<p>三 六月廿七日雷なり雷つ廿九日雷なり 在原の遠膳震死す○七月晦日 大地震帝紫宸殿の南に庭に御と○ 八月廿六日帝崩御壽 年八同日源の定省太子は喜す○ 九月二日帝と田邑の陵に葬 る小松の山陵とがけく○十一月十七日太子即位</p>	<p>未 正月錢鏐杭州の刺史 とに○九月高駢秦彦と殺る</p>

<p>四五 宇多 諸定省皇子院とを 寛平法皇も先帝 此皇子也母式部中仲野親王女班子と 八月仁和寺つ○九月十五日巨勢大 全羅人申て御取の南庇 の障子弘仁の後の詩と能する者 秋とさし○十月大嘗會</p>	<p>成中 二月帝長安とらる○ 三月帝崩御位に即位 德</p>
<p>寛 正月朔始て四方拜あり○十月廿 巳酉 九月陽成帝女子と得りて水と 漬あふ○十月廿五日始て賀茂の 臨時祭あり○同廿八日敦仁と親王と</p>	<p>十 昭宗 諸八驛歎宗 女子在位十 六年○二月崇權誅せらる</p>
<p>二 正月上方の皇子始て若菜とさる 十音始て七種の粥とさる○同 十九日僧正遍昭寂す</p>	<p>成天 正月李克用及く○王 全義の妻足乃母より 珠とさる</p>
<p>三 正月十三日自基經死と昭宣</p>	<p>辛亥 四月基經の長と天余</p>

公論中。十月廿九日。皆證大師。殺す。

菅丞相。類聚。因史二百卷。撰。子。八月。揚行。密。准。南。乃。景。

勅。旨。と。渤海。遺。多。敏。行。草。旨。す。節。度。使。と。す。福。

深。殿。存。狂。氣。僧。相。心。加。持。し。七。奎。七。二。月。李。茂。貞。と。山。南。西。二。

愈。○。四。月。十。三。日。敦。仁。親。王。と。大。子。道。乃。節。度。使。と。す。二。

○。九。月。廿。五。日。菅。丞。相。新。撰。万。葉。集。と。撰。て。と。く。二。

九。月。新。羅。乃。賊。船。甲。五。艘。對。馬。甲。寅。四。月。馬。殿。潭。列。入。て。二。

と。龍。衣。文。室。の。善。友。賊。と。三。百。餘。人。鄧。處。訥。と。殺。と。二。

討。殺。し。船。と。奪。る。○。十。二。月。渤海。乃。使。裴。文。籍。と。く。二。

三。月。神。泉。苑。と。幸。梅花。乃。宴。卯。二。月。董。昌。自。越。帝。し。二。

と。催。す。○。同。廿。六。日。菅。丞。相。二。刻。稱。す。○。十。二。月。李。克。用。二。

百。十。首。乃。詩。と。凡。々。り。ま。と。香。手。と。す。二。

八。國。正。月。六。日。飛。雲。林。院。と。幸。弘。明。日。丙。辰。五。月。董。昌。誅。せ。ら。る。○。七。三。

乃。逃。わ。り。○。九。月。廿。日。二。系。乃。高。子。と。廢。と。○。十。二。月。左。大。臣。良。也。任。月。李。茂。貞。景。禪。と。攻。と。致。と。右。大。臣。能。有。政。と。と。く。茂。貞。長。安。と。な。く。二。

九。六。月。八。日。能。有。死。と。○。十九。日。大。劔。言。丁。巳。十。月。勅。し。て。李。茂。貞。が。官。位。と。削。り。二。

乃。負。正。一。人。權。二。人。と。定。む。○。七。月。三。日。大。子。元。服。し。て。禪。と。受。む。藤。原。乃。時。平。菅。丞。相。勅。と。受。二。

て。政。と。と。く。○。十。日。大。上。天。皇。乃。号。と。上。る。十三。日。即位。○。廿。三。日。皇。列。○。十。月。廿。日。大。嘗。會。二。

と。り。小。見。乃。額。と。角。一。つ。生。と。○。十。月。廿。日。大。嘗。會。○。十。月。廿。日。大。嘗。會。二。

藤。乃。女。胤。子。位。と。在。む。○。九。三。年。○。四月。山。科。乃。祭。始。と。○。六。月。三。日。天。晴。て。人。の。面。と。并。と。○。十月。廿。日。上。皇。揚。州。大。和。乃。名。取。と。巡。り。國。十。月。朔。京。よ。ら。の。元。祿。六。年。也。七。百。九。十。六。年。と。す。二。

二月三日朝觀の行幸 ○二月十四日 巳未

菅原相右大臣任じ時平左大臣任じ ○五月廿二日孫殿
名崩す ○十月廿四日皇飾と落し法の帝金剛亮

三月十二日大臣高藤死す ○十帝 正月李述帝少陽院
一月十八日藤原乃良世死す 述て太子裕と位よある

正月廿五日菅原相と筑紫流 正月孫德昭示 李季天
○八月時平善行三代実録五 述と誅す帝位復復
十卷と撰 ○同十九日延喜格と上 り裕と黜る

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

二月廿三日法皇仁和寺にて法花八講といひきあふ

年代記

長

二

撫よらて重陽の宴なり

九 三月九日法皇仁和寺にて法花八

講と夜せらる。四月四日時平死す。

七月六日醍醐寺醍醐山聖宝藏す。

十 三月廿三日一条の后薨る。六月大

早す。七月七月大川大雨。九月法

皇天皇山に登り灌頂を受ふ。

十一 十月廿二日太子始て壽經と読ふ。

十一月廿八日太子名保明とす。

十二 正月三日仁和寺に幸す。四月八日

春す。六月三日集皇あつる。

十三 三月源の光死す。狩り時馳て

泥の中へ入て其骸を乞ふ。八月

王建武成元年

正月梁都洛陽より遷

す。四月王審知と風王し

す。七月刘守光と燕王し

淮南の国と呉と稱す。四

六月梁の楚王殷と天策

將軍とす。

元永元年。八月燕王乾

元永元年。八月燕王乾

六月梁の友珪太祖と

二 弒す。位はす。

末帝。諱友貞。太祖

朝。大川。木と後。尾ととす。

名と稱し改む。十月晋毛州仁恭と

十四 五月一条一条薨る。六月春洪

水。七月廿三日晋忠平右大臣の任む

十五 正月朔。取目御業と供す。十月

疱瘡疫疔と伝る。

十六 三月七日帝。朱雀院にて法皇奉

此賀と行む。五月七日源氏の元祖

貞純親王。薨る。八月廿二日筑前

より牛頭二つ前足四つを統とす。

十七 七月より早す。十一月朔。東大寺

なる。四日法皇馬を御幸。同

月井の水。枯たくる。

友珪と諱して位はす。

正月刘仁恭。刘守光

誅せらる。

四月魏人晋に降参

す。

元永元年。布代格

殺す。十二月契丹帝と

稱す。契丹帝。太祖阿

保機。神冊元年

元永元年。乾亨

南。越と改む。八月

刘岩越の帝とす。

十八	八月十五晋供水浚河の海	成寅	蜀元 有蜀北王 四
十九	九月七日醫師深根の輔仁掌 中要方を撰つ 十月琴皇ハツ	巳卯	蜀元 有蜀北王 四
二十	仲平安奈寺を造る 十月晋右大臣忠平 甲の賀	巳卯	蜀元 有蜀北王 四
廿一	五月八日渤海の使きくる 七月早慶	辰戌	五月吳の隆演死す 六
廿二	十月廿八日皇子ホノ源の姓をよ	巳卯	蜀元 有蜀北王 四
廿三	十月廿三日空海弘法大師と号す 辛巳	巳卯	蜀元 有蜀北王 四
廿四	十月廿七日法皇出家の後皇子雅明と帝の御子とす 徳	巳卯	蜀元 有蜀北王 四
廿五	三月廿一日太子薨る世挙て菅丞	寅癸	蜀元 有蜀北王 四
廿六	七月廿五日朱雀院ひまらふ	寅癸	蜀元 有蜀北王 四
廿七	正月廿二日忠平左大臣任じ定	甲申	蜀元 有蜀北王 四
廿八	方右大臣任じ	甲申	蜀元 有蜀北王 四
廿九	六月十三日帝御抱瘡十九日太子	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十	薨る 十月廿日寛明親王と太子	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十一	子とす	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十二	六月二日村上天皇	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十三	同廿六日祇園	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十四	乃天神堂供養 十二月十九日法	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十五	皇七十六の賀	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十六	即 吳越室正元 七月契母乃天祖死す 徳光	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十七	十二月同珍智證大師此号と贈る	酉乙	蜀元 有蜀北王 四

廿一	三月廿一日太子薨る世挙て菅丞	寅癸	蜀元 有蜀北王 四
廿二	七月廿五日朱雀院ひまらふ	寅癸	蜀元 有蜀北王 四
廿三	正月廿二日忠平左大臣任じ定	甲申	蜀元 有蜀北王 四
廿四	方右大臣任じ	甲申	蜀元 有蜀北王 四
廿五	六月十三日帝御抱瘡十九日太子	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
廿六	薨る 十月廿日寛明親王と太子	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
廿七	子とす	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
廿八	六月二日村上天皇	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
廿九	同廿六日祇園	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十	乃天神堂供養 十二月十九日法	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十一	皇七十六の賀	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十二	即 吳越室正元 七月契母乃天祖死す 徳光	酉乙	蜀元 有蜀北王 四
三十三	十二月同珍智證大師此号と贈る	酉乙	蜀元 有蜀北王 四

年代記

長六ノ六

七

○同廿六日忠平延喜式奉卷延
喜後平二卷と撰てさくぐ

乾貞元○郭從謙誅せ
らる

六 六月道元漢の聖王賢臣德行
と清涼殿の南庇此壁を春しじ

戊子 漢大有元○八月唐王三
延鈞と風王とす

七 八月十五日洪水○九月道元は賢
聖乃障子此壁の銘と春しじ

己丑 吳大和元○四月鉄錫
乃錢と禁す

八 六月廿六日雷清涼殿は震る清
貫希世も五人震死と菅原
相乃美の所為なり○七月十五日
り帝御惱 九月廿二日位と天子
あがりま同廿九日帝崩御壽

庚寅 八月唐の董璋と孟知
祥と兵と連て死く勅
して二人が官位と削る
○七月禁乃馬殿死す
子乃希声とく

甲六十月十日宇治乃郡山科乃陵小野寺よ葬る○十一月
廿日太子即位左大臣忠平。攝政と

卷之六終

八祿六年ヨリ寛延二年ト
五十七年

